

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00265

研究課題名(和文) 西欧近代医学教育カリキュラムの背景思想と理念について：書誌調査と分析

研究課題名(英文) On the Background Ideas of Modern Western Medical Education Curriculum: A Bibliographic Survey and Analysis

研究代表者

澤井 直 (SAWAI, TADASHI)

順天堂大学・医学部・助教

研究者番号：40407268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では西欧初期近代の医学教育に関して、初学者向けに学習の仕方や医学学習の意義を説く書籍群の調査をした。これまでこのような書籍群の一部についての研究はあったが、書籍群として1つのジャンルを形成しているとは考えられていなかった。本研究では「医学学習指南書」というジャンル名を与え、16世紀から18世紀にかけて出版された書籍を発掘・収集し、内容の分析を行なった。調査から書籍群には共通する話題が含まれることが明らかになった：学習すべき内容と参照すべき書籍の紹介、医学の特質、学習者の態度。特に については複数の書籍を比較し、医学そのものや諸分野の変化に応じて変化していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では「医学学習指南書」という医学書の一ジャンルの分析を行ったが、この分析は、現代医学の直接的源流である西欧医学の礎が構築された初期近代において医師養成がどのような理念に基づいて行われていたか、という問いへの示唆を与えるものである。調査からは、多くの「医学学習指南書」の著者が、新知見・新理論の発表が相次ぐなかでそれを教育にどのように盛り込むか、学習内容が増加する中で医師が果たすべき責務やプロフェッショナリズムをいかに学生に伝えるか、という現在と同様の問題を意識していたことが明らかになった。したがって過去の状況の分析・認識にとどまらない意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study investigated a group of books on medical education in early modern Western Europe that explain to beginning students how to learn and the significance of medical learning. Several studies have dealt with some of these books but did not consider these to form a single genre. In this study, we gave the genre name of "medical study guides" to the books published between the 16th and 18th centuries and analyzed the contents of the books. The survey revealed that the group of books contained common topics: (1) The contents to learn and the books to refer to, (2) The characteristics of medicine. The attitudes of the learners, (3). Notably, for 1, the comparison of several books revealed that the entries have changed in response to changes in medicine itself and the fields.

研究分野：医史学

キーワード：医学教育 学習指南書 近代医学

1. 研究開始当初の背景

本研究は「西欧近代において医学生が医師になるために何を習得すべきだと考えられていたのか?」という問いについて、調査者が「医学学習指南書」と名付けた書籍ジャンルの分析から回答を試みるものである。

本研究を着想するに至ったのは、16世紀フランスの医学者ヤコブス・シルヴィウスが『貧窮学生のための準備が容易で健全な生活法』・『ヒポクラテスとガレノスの著作を読む順序とその順序の理由』という見慣れないタイトルの書籍を執筆していたことに気づいたのがきっかけである。医学生のあるべき生活態度や医師としての資質、また医学学習を効率的に行なうための読書法について記されており、医学教育についての貴重な資料であることがわかり、同様の内容を持つ類書の内容を調査した結果、類書の内容が確認できた。それにより、一群の資料として当時の医学教育を知るための研究資料になりうると書籍ジャンルだった判断した。

先行研究でこれらの書籍群を扱ったものを調べたが、著名な医学者による「医学学習指南書」を扱う研究は散発的に存在するが、一冊あるいは数冊を扱った研究がわずかにあるのみで、書籍ジャンルを形成していると認識されていなかった。また、初期近代という長いスパンで捉えようとしていなかった。

2. 研究の目的

本研究では「医学学習指南書」というジャンルに注目し、この書籍群の書誌調査を行ない、各書籍に記された内容を分析することにより、近代西欧医学教育における学習項目について、それが策定された背景思想・理念を明らかにすることを目的とした。

本研究が未解明の書籍群である「医学学習指南書」に注目したのは、その内容が一般の医学書のように医学的内容の伝達ではなく、何を学ぶべきか・どのように学ぶべきか・医学はどのようなものか、ということ伝えることを主眼に置いていたからである。上記の問いに対する回答を与えてくれるからである。

この研究は歴史研究上の新たな知見を提示するとともに、他の観点からの研究にも有効な資料群の存在を示すことができ、さらに、現代日本の医学教育を考察する際などに、比較対象として参照されうるものになることも期待された。

具体的なには以下の3つの手順で上記目的

- (1) 「医学学習指南書」の書誌目録の作成
- (2) 「医学学習指南書」各書籍の記載内容を盛り込んだデータベースの作成
- (3) 作成したデータベースを用い、近代西欧医学におけるカリキュラム策定の背景思想・理念の分析

3. 研究の方法

各手順において以下の方法で作業を進めた。

- (1) 「医学学習指南書」の書誌目録の作成
16世紀から19世紀に西欧で出版された書籍のうち、医学学習者向け、医学の特質・学習の態度・学習すべき項目について記されている、という二つの条件を満たす書籍を見つけ、収集し、その書誌情報を記載した目録を作成した。
未解明の書籍ジャンルであり、近年の医学史関連の書誌目録からは抜け落ちているため、書籍を一つ一つ発掘するところから始める必要があった。予備調査において見出した「医学学習指南書」の書籍の書名に共通する単語や書名そのものの情報を元に、3つの方法で新たな書籍を見つけた。
a) 書名検索: 「医学」(medicina)・「方法」(methodus, via, ratio)・「学習」(studium, studendus, discendus)などのラテン語の単語を書名に含む書籍を、西欧各国の代表的な図書館のopacで検索
b) 参照先検索: 予備調査で見出した書籍に言及している他の書籍をGoogleBooksなどの全文検索によって洗い出し、見つかった書籍の内容を確認
c) 書誌目録検索: 16世紀以降に出版された各種の書誌目録、特に分野・テーマごとに類書をまとめて記載する分類書誌目録を使用し、既知の「医学学習指南書」と同一グループに分類されている書籍を確認
- (2) 「医学学習指南書」各書籍の記載内容を盛り込んだデータベースの作成
(1)の作業において見つかった「医学学習指南書」各書籍について、記載されている事項の概要をテキスト化して、データベースに入力する
- (3) 作成したデータベースを用い、近代西欧医学におけるカリキュラム策定の背景思想・理念の分析
上記(1)と(2)の作業で作成されたデータベースを用い、近代西欧医学において医学学習者に

対して 何を習得すべきだと考えられていたのかという問題について、背景思想や理念という観点で分析を行なう。

4. 研究成果

調査の結果、16世紀初頭から18世紀末にかけて100点弱の医学学習指南書が見いだされた。ほとんどはラテン語で書かれ、当時のラテン語を使用した医学教育の状況を反映している。医学的内容を伝える医学書の一部として学習指南にページが割かれることもあったが、学習指南を主題としたある程度の分量のあるまとまった書籍となっていたものを中心に21点について調査を行なった。

- 1520 Stainpeis 『医学における学習と読書のための方法について』
- 1539 Sylvius 『ヒポクラテスとガレノスの著作を読む順序とその順序の理由』
- 1542 Sylvius 『貧窮学生のための準備が容易で健全な生活法』
- 1543 Cornarius 『医学を理解するための正しい学習について』
- 1552 Placotomus 『特に医学を学ぶための方法についての演説』
- 1555 du Chastel 『未来の医師に必要なことを論じた演説』
- 1556 Hieronymus Montuus 『若者のための書』
- 1565 Johannes Crato 『医術の梗概』
- 1570 Mercuriale 『医学に労力を捧げる人たちの学習のための方法について』
- 1584 Jacobus Horstus 『医学を学ぶ際の障害とその対処法について』
- 1592 Heurnius 『医学に自らの労力を捧げる人々の学びの方法と手段』
- 1600 Possevino 『医学の学習の方法』
- 1600 Jacobus Pons 『医学、あるいは方法と最良の道筋』
- 1606 Schenck 『医学のために教え込まれるべき熱心さについて』
- 1616 Curtius 『医学に自らの労力を奉じる学習者の方法と手段』
- 1628 Bartholin 『医学の学習を始め、継続し、終わらせるようとする人への助言』
- 1636 Sennert 『医学を学ぶための方法』
- 1639 Linden 『医学の手引』
- 1643 Kyper 『医学を適切に学び用いる方法』
- 1721 Gerike 『最も適切に医学を教えるための、及び学ぶための手段についての演説』
- 1726 Boerhhave 『医学学習法』
- 1751 Haller 『医学学習法』

大きな流れとして、各世紀の指南書の特徴を記す。

16世紀はガレノスの読み方や医学の有用性・社会的価値を論じる内容が多い。16世紀初頭はアラビアの医学者の著作も取り上げられているが、世紀の中頃には見られなくなる。これはギリシア医学への関心の高まりと呼応している。一方で、ヴェサリウスらによる解剖の重視は、指南書内には反映されておらず、17世紀を待たなければならない。

17世紀になるとハーヴィの血液循環論やヴェサリウス以降の新発見の諸構造、あるいは化学など、ヒポクラテスやガレノス以外の近い時代の医学書の内容が紹介されるようになり、推奨される書籍の数・幅に広がりが見られる。また、そのような状況において効果的な学習を行う方法を伝える性格をもつ指南書が多い。さらに複数の著者の指南書を合冊した書籍が出版されたり、指南書内で別の指南書への言及があるなど、当時の医書出版においても医学学習指南書が一つのジャンルを形成していたことが伺われ、調査者が指定した「医学学習指南書」というジャンルが実際に存在していたことが明らかになった。また、このことは同時代の医書書誌目録においても、確認された。

18世紀においては当時を代表する2人の医師、プールハーフェとハラーによる学習指南書が際立った存在となっていた。プールハーフェはライデン大学で医学を教え、彼のもとにヨーロッパじゅうから学生が学びに来たことが知られているが、彼の指南書では物理学や化学や博物学などの自然学の学習を盛り込んだ新たな学習内容を提示する。プールハーフェに学んだハラーは、プールハーフェの指南書に注釈を加える。プールハーフェが参照すべき書籍を簡素にしか示さなかったのに対し、ハラーの注釈は各分野・主題を扱う全書籍を網羅するものとなっている。そのため元のプールハーフェの本文よりも大分量の注釈となり、注釈部分だけで分類書誌目録となっていた。革命後のフランスにおいてもこの2人の学習指南書が推奨されるなど、圧倒的な影響を誇っていたことが伺え、そのためにそれ以外には学習指南書は執筆されなくなったか、あるいは埋もれてしまったのではないかと考えられる。

ハラーの医学学習指南書は、指南書と書誌目録の類似・近接を示しており、同様の事例がないかも調査した。その結果リンデンの『医学の手引』でも指南書が書誌目録と近い関係を持っていた。リンデンは最初の本格的な医学書誌目録『医学著作について』の作成者として名高いが、その初版の冒頭に「D. ベトルス・テュルピウス宛の医学の手引」というまとまった文章が置かれ、医学学習指南を行っていた。同書第二版以降は、この文章は収録されず、代わりに独立した書籍として1639年に出版されていた。

これまで注目されることのなかった書籍群であり、網羅しきれていない書籍が残る可能性も

高いが、初期近代の医学教育を分析するうえで重要な情報を提供する資料群であることが示された。主として推奨書籍の分析を行なったが、医療行政や社会における医学の位置づけに関する同時代の見解と比較考量しながら当時の医学教育を位置づけを考察する研究などにも使用できる資料群と思われる。継続してこの資料群を用いた研究を遂行する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Tadashi Sawai	4. 巻 66
2. 論文標題 A Comparison of Boerhaave and Haller 's Study Guides for Medical Students	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Juntendo Medical Journal	6. 最初と最後の頁 132-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14789/jmj.2020.66.JMJ19-0A18	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 澤井直
2. 発表標題 医学学習指南書と医学書誌目録の類似性と相違性 -リンデンの『医学の手引』-
3. 学会等名 日本医史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤井直
2. 発表標題 17世紀の医学学習指南書 Kestner 『医学書誌』記載書籍の分析
3. 学会等名 日本医史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 澤井直
2. 発表標題 ブールハーフェとハラーの「医学学習指南書」
3. 学会等名 日本医史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤井直
2. 発表標題 16世紀前半の医学学習指南書
3. 学会等名 日本医史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤井直
2. 発表標題 ヴィヴェスの教育論における医学教育
3. 学会等名 日本医史学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関